

第十四回 雑俳たわむ連

平成二十三年十一月五日 於・高輪区民センター

題

物者附 白くてあるするものは 半駄小手咲 撰

効き・酒が入って未はぐずぐず

客の初 二十点 冷めた奴 碁豆萩後

効き・NHKも媚びる若者

客の二 三十点 大晦日の嵐 駒込親方

効き・パークレールで行く飛鳥山

客の三 四十点 王子の乗り物 気張亭文文

効き・七難隠し夜のお勤め

客の四 五十点 化学の基礎 碁豆萩後

効き・チヨコッと甘い札幌の味

客の留 六十点 恋人の土産 幽楽坊

ほめただけ

ゼロの答え 朝梅干 隠した角 朝梅干

雨のお務め 鮫漫坊 讃岐のドン 津団

使い分けた内と外 駒込親方 雪に隠れた朝顔 幽楽坊

大それた幸福 唐突坊 練られた味わい 水清里

効き・区間記録を出す先導車

人 八十点 トップの警察官 気張亭文文

効き・半幅帯でする里帰り

地 九十点 和んだお袋 朝梅干

効き・白眉の芸に動じないトリ

天 壹百点 盤石の後手 黄昏の春爺

効き・欲望乗せた電車来たりて

雲隠し

二十点 越えてしまった一線 駒込親方

自句 積んだ入道 小手咲

第十四回 雑俳たわむ連

平成二十三年十一月五日 於・高輪区民センター

【題】洒落附 数字入り名詞一切 半駄小手咲 撰

効き・少し欠けるが夫婦円満

客の初 二十点 十六夜転じて福と成す 碁豆萩後

効き・突き出しだけで手酌五合

客の二 三十点 千鳥酒場で飲む酒は 長久命長助

効き・平積みさせる装丁の技

客の三 四十点 一冊仕事人 唐突坊

効き・負けて二番が決まる柔道

客の四 五十点 三位はV 駒込親方

効き・大空の鯉あやす初孫

客の留 六十点 五月晴れ泣いてたのに 幽楽坊

ほめただけ

五十万の時計（斧入り） みのりや貧乏 一本気心中 流亭満丸

五十路の旅 粹人亭凡作 四苦八苦症候群 此糸

億ション！ちきしよいっ！ 幽楽坊 兆候いま出たところです 幽楽坊

二階夕陽に照らされて 馬齢粹醒 二度手間炒め 勘考場久齋

効き・助六の役上手い海老蔵

人 八十点 十八番がよろしいようで 水清里

効き・都会離れて知る空と海

地 九十点 四国で仏に会う 流亭満丸

効き・願いを乗せて消える白球

天 壹百点 千羽鶴高校野球 勘考場久齋

効き・鉄兜せず夜襲決行

要領し 二十点 生一本男児 碁豆萩後

自句 一芸に刃物 小手咲 惣句高

付句

十二支ドラゴンズ

通り句

七夕ぼたもち

七輪の侍

地口になってしまった句

三種の甚句

一日千住

二十四の独り身

百人で一周

第十四回 雑俳たわむ連

平成二十三年十一月五日 於・高輪区民センター

題

折句附 「ひらき」 天地清濁随意 半駄小手咲 撰

効き・潔癖症が妻の欠点

客の初 二十点 キスの後ラップはがしてひと呼吸 鮫漫坊

効き・万年床できのこ収穫

客の二 三十点 独り寝はらつきよにんにく気にもせず 水清里

効き・急に小声になる浮世床

客の三 四十点 秘密めくらしい話で気を持たせ 馬齢粹醒

効き・半可通より良い審美眼

客の四 五十点 ピュアな目で落語観ている帰国子女 駒込親方

効き・デジタル遠く近づいたポケ

客の留 六十点 気持ちではライカに負けぬピンホール 碁豆萩後

ほめただけ

金色の落日迫る日の名残り みのりや貧乏

絹の道駱駝と私干からびる 流亭満丸

日陰行く落剥の身に消えぬ過去 馬齢粹醒

悲喜劇とライカ構えて切り結ぶ 上方童子

美食家もラップでチンする木の芽和え 駒込親方

引き出しに蘭麝の香り黄ばむ文 馬齢粹醒

引き戸閉め雷様怖いと気を持たせ 馬齢粹醒

効き・祖父母叔父叔母みんな居るはず

人 八十点 ひび割れの羅漢百体鬼気迫る 素人

効き・水車の音も消す蝉時雨

地 九十点 清き水らつきよう洗う鄙の夏 粹人亭凡作

効き・月の砂漠で来る灯油売り

天 壹百点 着たきりのラクダにのぞく膝頭 鮫漫坊

効き・LがRになって徘徊

要領し

二十点 引っ搔いたラブの字背なに帰宅させ 鮫漫坊

自句 金閣寺ライトアップや昼のごと 小手咲

